

我が著書を語る

『倭の五王は誰か』

—— 二大王家の並立と巨大古墳の被葬者 ——

伊藤友一（川崎市）

『宋書』に登場する「倭の五王」のうち「讚」はいまだに誰に比定するかで定説がなく、応神・仁徳・履中の三天皇に割れているのが現状である。

本書では、先学者たちが誰を「倭の五王」に比定したのか、またその根拠は何かを述べるとともに、「珍・済」の血縁関係、大和王権の強さ、巨大古墳である彼らの陵墓について私見を展開した。

本の内容を簡単にまとめると次の通りとなる。

- ・『宋書』の絶対年代が「倭の五王」比定の決め手
- ・5世紀には応神系・仁徳系の二大王家があった
- ・倭王武（雄略天皇）の治世下に日本の古代「国家」が誕生した
- ・現在治定されている天皇陵は疑問符だらけ

2017年5月出版 東京図書出版 1,350円（税別）

